

# 「虐待死ゼロのまち」をめざして 私たちに何ができるか、 話し合い、行動しましょう。

虐待による子どもの死亡事件があとを絶ちません。  
こんな悲しいまちにしないために、私たちに何ができるか、考えましょう。

想像してみましょう。  
抱きしめてもらいたい母親に、突き放された、その子の悲しみ。  
ほほえんでもらいたい父親に、置き去りにされた、その子の恐怖を。

耳を傾けてみましょう。  
死んでしまったその子が、命をかけて訴えたかったこと。  
短い生涯を終えなければならなかった、その子の無念に。

思い出してみましょう。  
泣きやまぬわが子に、思わずイライラした、あの日。  
涙によこれて眠ってしまった顔に、胸しめつけられた夜のことを。

思い出してみましょう  
わが子の誕生に感動して、涙したあの日。  
つらいときに私たちの心を癒してくれた、あの笑顔を。

私たちに何ができるか、話し合いましょう。  
そして、立ち上がり、できることから行動しましょう。  
市民も行政も、地域も企業も、そしてメディアも。

あらゆる人に呼びかけます。  
「虐待死ゼロのまちをめざすネットワーク」に、どうぞあなたも参加してください。

福岡市子ども虐待防止活動推進委員会



子どもが虐待で死ぬときは、子どもも親もが社会から見捨てられている。  
そこで子どもは、頼る人もなく、過酷な生活に耐え、力尽きて孤独に命を閉じる。

日本子どもの虐待防止学会会長 小林美智子